

こどもが まんなか いわてのWAっこ

ワクワクドキドキ!



ハンカチ上げ



足場かけ



すべての子どもたちと学校の
ウェルビーイングの実現
を目指して

いわて幼児教育センター通信

No.5 令和7年10月8日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室

(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロードでき
ます

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html>

きらきら☆いわてっこ

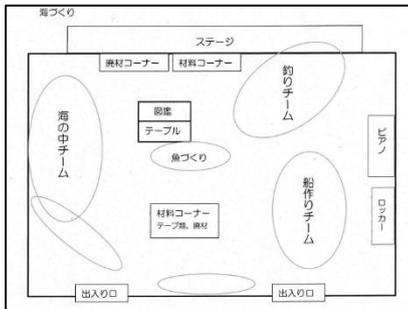
いわて幼児教育センターの専門員が先月に訪問支援した園で見つけた、ワクワクドキドキな姿をご紹介します。

「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」 学びの芽を育むための保育者の役割

〈海づくりをしよう!〉 5歳児 8月

「幼児教育推進モデル指定研究事業」(岩手県教育委員会指定)を実施している宮古市教育委員会での保育参観の際の様子です(詳細は裏面参照)。

宮古市の「架け橋期のカリキュラム」には、地区ごとの特色を生かした重点があります。自然豊かな地域の良さを生かし、「自然と触れ合う体験を通して、好奇心や探究心をもって考え、互いに関心を深め合えるような交流を行う。」と掲げている地区の保育です。地域や子どもの姿からスタートした重点に沿った保育だからこそ、子どもたちの「やってみたい」気持ちが次々に広がっていました。



漁船と豪華客船を合わせた、大きな船作り! 操縦室では本当に回るハンドル作り、船ペリでは釣り糸を垂らすしかけなど、身近で海を見ている子供達らしさにあふれた発想です。

漁師さんからの竿さばき。海釣りごっこで釣られる魚になりきって、ぴちぴちはねている子ども登場! 一人ひとりが海のイメージで楽しんでいました。



窓や壁を生かし、まるで海の中に入って
いくな空間づくり!!

今日は、通路の壁面が倒れないように
と、支える工夫をしています。海の中担当
として、自分の役割をしっかりと果たそうとす
る姿でした。



中に入って見上げると、いろいろな魚が見えるようになりました。
見に来てくれる他のクラスの友達を驚かせたいとか、きれ
いだと感じてほしいという思いが伝わります。



いろいろな魚をイメージできるよう、絵
本や図鑑など、自ら情報を取り込める
環境がありました。

【環境を通して行う保育】

子どもは、身近な人やものなどあらゆる環境からの刺激を受け、経験の中で様々なことを感じたり、新たな気付きを得たりする。そして、充実感や満足感を味わうことで、好奇心や自分から関わろうとする意欲をもってより主体的に環境と関わるようになる。

子ども一人一人の状況や発達過程を踏まえて、計画的に保育の環境を整えたり構成したりしていくことが重要である。

(保育所保育指針解説p15)

(観察者の目)

子供達の「やってみたい」を引き出しているのは、日頃から自然と触れ合う生活をしている子ども達の姿を見取り、そこによさを感じた先生たちが丁寧に準備した「環境」です。

私たち保育者がしていることは、自ら学ぼうとする子ども達への「足場かけ」です。

モデル指定研究事業の報告 ～宮古市(R6～R7)～

本研究事業に昨年度から取り組んでいる宮古市のカリキュラム開発会議のメンバーは、幼児教育・小学校・教育委員会・こども家庭センター・幼児教育アドバイザーと多岐に渡ります。これまで保育・授業参観や協議を重ねてきているからこそ、子ども達の姿を基に、担当課を超えて様々な意見が交わされています。

先日行われた、1年生(生活「ようこそ!イモリさん!」(あたらしいせいかつp52～61【いきものとなかよし】)の授業参観・協議の様子をご紹介します。

- ・推進テーマ「幼保小の協働による子どもの学びと生活の基盤づくり～宮古市架け橋プログラムの開発・実践とこども家庭センターとの連携をとおして～」
- ・本年度の重点
 - (1)「架け橋期のカリキュラム」の見直し
 - (2) 幼保小交流事業の推進
 - (3) 幼小の引継ぎの充実と切れ目ない支援の実施
 - (4) 市幼児教育アドバイザーの育成



担任の先生も、毎時間イモリの仲間です。



ペアの友達と二人で一匹お世話します。どんなお家にしたらいいか、いろいろ試します。



お水はどれくらい入れたら住みやすいかな?



開発会議メンバーだけでなく町内のたくさんの先生方が参観に来ました。

【協議の様子の一部】

子どもたちと、イモリの住む場所についてどこまで共有していたのですか?

事前に動画を見せました。今日の授業の間も、大型テレビに映しておいていつでも見られるようにしました。最後に「ジャングルみたいにした」と話した子は、この動画のイメージをそう話したのだと思います。



子ども達一人一人のよさが生かされていると思いました。イモリに触れない子はいなかったとのことでしたが、触れ合う中でかわいと思うようになってくるのが大事なのだと思います。

「生命の尊さ」について、今後どう気付かせていったらいいかな、と思っています。

それぞれの園で活動や遊びを通して、いろいろな生き物と触れる体験をしています。インコとかカマキリの卵のふ化とか…。同じ生き物についても、3歳、4歳、5歳で関わり方が違ってたりします。

ホールからイモリのお家に使うものとか水槽を運ぶときに、参観者の私達に「うしろ通ります」と声をかけるところが印象に残りました。それも子ども達の生活の基盤の一つだと感じました。

【市の幼児教育アドバイザーより】

- ・ユニバーサルデザインの視点が多く盛り込まれ、教材や活動が視覚的に分かりやすかったことで、どの児童も安心して参加していました。
- ・単元を長期的なカリキュラムとして捉え、子どもたちが生命について考えるきっかけとなしてほしい。
- ・幼児期の教育で「自分の思いを大切に」してきたことから、小学校では「目的意識をもった活動」に自然とつながっています。

協議しやすい雰囲気作り、進行も工夫して取り組んでいました。更に詳しく知りたい時は、宮古市教育委員会へ問合わせください。

近隣市町村同士の取組の紹介



8月末に、矢巾町保育園・こども園園長会が花巻市に伺い、市内幼稚園の保育参観や「架け橋期のカリキュラム」作成過程について学び会研修会が行われました。園長先生達の思いに教育委員会が寄り添って、実現に至ったものです。

参加者からは、「幼小連携・交流の全体構想図があり、職員の異動があっても継続できることがよい」「散歩の途中で幼児と児童が偶然に出会い交流が生まれる演出など、子どもの思いや願いを大切に交流の在り方が素敵だった」「カリキュラム作成そのものだけでなく、作成過程を説明してもらったのがとてもよかった」等の感想がありました。

市町村の枠を超え、現場の先生方や行政担当者が、連携について意見を交わす貴重な機会が県内各地で生まれています。

よろしければ、各市町村・園の取組の様子をお寄せください。「いわてのWAっこ」等を通して、すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現のために、県内の皆さんの共有財産にしていきたいと思います。

【担当】

いわて幼児教育センター

Tel:019-629-6149

Email:DB0003@pref.iwate.jp